

《研究ノート》

## 平成 25 年度ニュージーランド研修 事前・事後アンケートについて

近 藤 益 世\*

### はじめに

江戸川大学海外研修プログラムは、1990 年の大学開学以来長きに渡って、学生気質の推移を鑑みながら、発展的に様々な試みがなされてきました。今年は、装いも新たに、カリキュラム上の科目名も「海外研修 A」「海外研修 B」から「ニュージーランド研修」と改名され、通年科目（事前研修【前期授業 15 回】+現地研修【夏季休暇中の 18 日間】+事後研修【後期授業 6 回】）として 6 単位が認められております。また、諸般の事情から必修科目の枠を外し、選択科目として広く門戸を開き、2 学部 5 学科の全学生が同等に選択できるよう配慮されています。海外研修科目が初めて必修枠から外されたことが学生達の意識にどのような変化をもたらすのか、自由意思で履修した学生達の声は今後の海外研修の在り方ひいてはキャンパスライフ全般に対してどのような提言をのぞかせてくれるのか極めて興味のある所であり、本論の意図する所でもあります。

過去、必修科目として履修し、研修に参加した学生達は口と揃えて次のように語っています。「もし必修科目でなかったら、参加していなかったかもしれない。そうすればあのような素晴らしい体験は味わえなかった。それは人生の大きな宝物を見失うことに他ならない。自らの生き方の指針を得るためにも全ての学生に参加してもらい

たい」。学生自らの意志で全ての学生が参加する——それは極めて理想的な概念であり、昨今の社会情勢はその理想を実現するに負の要素があまりにも強すぎる感があります。バブル崩壊後、大震災を含む様々な試練に直面してきた日本社会は全てが内向きに推移しているように思われます。人も社会も外に向かって飛翔する姿は影を潜めています。更に、インターネットの普及、深化と共に推移する情報革命により、ネット上での情報が人々の在り方を根本的に変えつつあります。若者たちの間にも、ネット情報に慢心し、自己充足的、閉鎖的傾向が強まっている事実は否めません。知識のみでなく、人間に備わった限りない感性を磨く全感覚を通しての体験——情報社会が忘れがちな側面——は機械ではなく人間としての在り方に最も大切なものといえます。大自然の雄大さ、街並み、様々な人々の生きざまは、その地に足を踏み入れて初めてその醍醐味が自己の内奥に深く染み入るものとなるのです。海外研修はまさにネット社会に欠落しがちな要素を驚きと感動のうちに補ってくれるものと言えます。しかし、それは体験して初めて体得できる感覚であります。冒険を恐れ、自分の世界に留まり、他との繋がりの中に意味を見出そうとしない者達の眼を外に開かせるのはどうすればよいのか、そこには幾多の難題が横たわっています。

### 1. 平成 25 年度の試み

そうした難題を少しでも解消すべく、今年度は

\* 江戸川大学 情報文化学科教授

初めての試みとして海外研修ブックレットを作成して新入学生及び保護者に配布、また新学期初めに設けられているオリエンテーション及び学科ガイダンスにてニュージーランド研修に関する説明—文字と映像を通しての研修地の様子、大学での授業風景、ホストファミリーとの交流、様々なアクティビティーの模様等—を行い、学生の意識を喚起しました。入学から履修期間までの限られた時間に如何にして学生達に海外研修の醍醐味を知ってもらえるか、今後の大きな課題であります。

今年度は、様々な負の要因を乗り越えて、研修参加を希望する学生が80名近く集まりました。最初の研修ガイダンスで、その学生達を対象に、今後の参考資料としてアンケート調査を行いました。その結果は次の通りです。

#### ニュージーランド研修参加者アンケート

実施日：2013年4月17日

対象者：ニュージーランド研修参加希望者

回答数：78

1. なぜこの研修に参加しようと思いましたか。
  - 英語力を身につけたい。(29)
  - 異文化を学びたい。(11)
  - 海外に興味がある。(10)
  - 以前、海外（ハワイ、オーストラリア、ロスアンゼルス、ラスベガス、中国など）に行く機会があり、海外への興味が強かった。(9)
  - 先輩や先生の話聞いて興味を持った。(8)
  - 今の自分を変えたい。(7)
  - 今まで海外に行ったことがない。(7)
  - 日本人以外の人とコミュニケーションを試みたかった。(6)
  - 6単位取得できる。(6)
  - いい経験になる。(4)
  - 自分の将来につながるものが得られる。(4)
  - 自分の視野を広げられる。(4)
2. 今までのガイダンスの中で印象に残ったことや、プログラムの中で特に興味のあることを書いて下さい。
  - 現地大学での授業 (22)
  - ホストファミリーとの交流 (16)
  - 牧場見学 (11)
  - パーティーはどのようなものか (10)
  - マオリ文化について (5)
  - 現地学生とのサッカー交流試合 (5)
  - 英語劇 (4)
  - ラジオ局訪問 (4)
  - 先輩たちのコメント (3)
  - 現地の人々とのコミュニケーション (2)
  - スカイトワー (2)
  - 誕生日のお祝い (2)
  - ホストファミリーとの別れ (2)
- 以前から留学に興味があった。(3)
- 高校時代、海外研修（ニュージーランド、カナダ）の機会を逸した。(2)
- 英語が好き。(2)
- 写真などではなく、自分の目で色々なものを見てみたい。(2)
- 海外の大学で授業を受けることに興味があった。(2)
- ホームステイを通して家族の在り方の違いを知りたい。(2)
- 一人で行くより安全でありより充実している（授業、ホームステイなど）。(2)
- ホームステイや大学での授業を通してコミュニケーション能力を高めたい。(2)
- 両親の勧め。(2)
- この研修を機に国外に出る楽しさを知りたい。(1)
- 友人がこの研修に参加する。(1)
- 将来色々な国を訪れたい。(1)
- ニュージーランドで何が経験できるか、何を残せるか試してみたい。(1)
- 新しい発見が出来る。(1)
- 自立心を身につけたい。(1)
- 日本では出来ない経験が出来る。(1)

- ・ニュージーランドの自然 (1)
- ・現地の人々の温かさ (1)
- ・海外研修で起こりうる全てのこと (1)
- ・研修に参加した先輩の話 (1)
- ・ニュージーランドの食文化 (1)
- ・アクティビティ (1)

3. この研修に参加するにあたり、不安に思っていることがあれば書いて下さい。

- ・英語でコミュニケーションがとれるか (53)
- ・ホストファミリーに迷惑をかけないか (20)
- ・食事が口に合うか (6)
- ・異文化の中でうまく過ごしていけるか (5)
- ・現地の授業についていけるか (4)
- ・知らない人と仲良くなれるか (3)
- ・気候、体調管理 (2)
- ・ホームシックにならないか (2)
- ・金銭面 (2)
- ・迷子にならないか (1)
- ・コース選択はどのように行われるのか (1)
- ・日本の家族と連絡をとれるか (1)
- ・ニュージーランドの治安 (1)
- ・携帯電話は使えるか (1)
- ・湯船につかれないこと (1)
- ・バスの乗り降りの仕方 (1)
- ・長時間のフライト (1)
- ・シャワーの時間 (1)

4. 現地でどういうことをやってみたいと思いますか。

- ・現地でしか出来ないことをたくさんやってみたい (15)
- ・多くの人とコミュニケーションをとりたい (13)
- ・英語によるコミュニケーション能力を高めたい (13)
- ・ホストファミリーとたくさんの思い出を作りたい (12)
- ・日本とニュージーランドの文化の違いを体得したい (10)
- ・自然を満喫したい (8)

- ・アクティビティ (5)
- ・友達を作りたい (5)
- ・観光地巡り (4)
- ・ニュージーランドの食を満喫したい (4)
- ・仔羊を抱きたい (4)
- ・サッカーの交流試合 (4)
- ・ニュージーランドの学生と仲良くなりたい (3)
- ・日本の文化を伝えたい (3)
- ・ラジオ局に行ってみたい (3)
- ・ニュージーランドの子供と遊びたい (3)
- ・異文化間のコミュニケーション (2)
- ・ニュージーランドのパーティーを経験してみたい (2)
- ・ショッピング (2)
- ・スポーツ (2)
- ・テレビ局を見学したい (2)
- ・食文化の違いを体得したい (2)
- ・ニュージーランド人になりきって過ごしたい (2)
- ・図書館に行きたい (1)
- ・英語劇 (1)
- ・ニュージーランドの歴史を学びたい (1)
- ・ニュージーランド人の感性や考え方に触れたい (1)

5. ガイダンス最後に設けられている相談コーナーで聞きたいことがあれば書いて下さい

- ・出発前にやっておいた方がいいこと
- ・日本の家族と連絡が取れるか
- ・P. C. や iphone が使えるか
- ・ホストファミリーへのお土産
- ・研修後は何をするのか
- ・ニュージーランドではいけないこと、失礼になることは何か
- ・お風呂や寝る時間、ニュージーランドと日本での「ルール」の違い
- ・食生活について
- ・お小遣いはどれくらい持っていけばよいか
- ・何を持っていったらよいか
- ・パスポートのコピー、更新について

・ローンや奨学金

上記履修希望学生の意見から見えてくることは、

1. 履修動機として、(1)英語力の向上、(2)異文化体験への期待、(3)過去に海外体験のある学生達、海外体験が初めてという学生達を含めての海外への強い興味、等、明確な目的意識を持って臨んでいること。
2. 大学の授業風景、アクティビティーの様子、ホストファミリーとの交流など、実際に研修に参加した先輩達の具体的な体験例が学生の興味を惹くこと。
3. 彼等の不安要因——英話力、コミュニケーション力——を軽減するための解りやすく詳細な説明を要すること。

などが挙げられます。こうした履修希望学生達の意見は参考となる所が多いにありますが、履修を試みていない学生達の意見も今後の研修の在り方を考える上で必要であろうかと思われます。従って次年度より、全学科対象のオリエンテーション

にて、全学生を対象に(1)海外研修に対してどのような考えを持っているか、(2)海外研修に望むこと、(3)海外研修に対する不安、等を含んだアンケート調査を行い、若者達の「ものの考え方」「生き方」を知り、海外研修へと繋げていくことは極めて有意義なことと言えます。

## 2. 平成 25 年度海外研修事前・事後 アンケート調査について

例年通り、事前アンケート調査（出発前の結団式後のコース別ガイダンスにて）と事後アンケート調査（現地研修最終日）が実施されました。結果は次の通りです。

### 1. アンケート調査結果

事前アンケート	実施日：2013年8月23日 回答数：60
事後アンケート	実施日：2013年9月10日 回答数：61

### 【選択形式】

#### (A) 研修前の事前研修について

事前アンケート結果					
	よく当てはまる	大体当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
(1) 現地事情を知るために、ビデオ教材は有効だと思う	19	27	11	3	0
(2) 現地事情を知るために、『海外研修記』は有効だと思う	23	23	9	5	0
(3) 研修大学とインターネット交流があると良い	20	18	19	3	0
(4) ホストファミリーとEメールで通信したい	15	18	24	3	0
事後アンケート結果					
(1) 現地事情を知るために、ビデオ教材は有効だった	9	18	20	14	0
(2) 現地事情を知るために、『海外研修記録』は有効だった	18	22	16	3	2
(3) 研修先大学とインターネット交流があると良い	14	20	21	5	1
(4) ホストファミリーとEメールで通信したい	21	20	13	3	4

## (B) 海外研修の期待と不安について

事前アンケート結果					
	よく当てはまる	大体当てはまる	どちらとも言えない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
(1) ホストファミリーとのコミュニケーションはうまくいくと思う	4	15	30	8	3
(2) ホストファミリーとの生活はうまくいくと思う	4	14	35	5	2
(3) ホームシックにはならないと思う	10	19	16	9	6
(4) ホームステイ先の習慣になじめると思う	3	19	27	6	4
(5) 日常会話は円滑にできると思う	3	10	18	21	8
(6) 現地授業に進行についていけると思う	2	11	27	12	8
(7) 現地で充実したアクティビティーがあると思う	10	22	22	5	1
(8) 現地の生活になじめると思う	8	15	27	8	1
(9) 現地の治安は良いと思う	14	20	20	6	0
(10) 現地の食べ物が口に合うと思う	6	10	35	7	2
(11) 現地の交通で不自由はしないと思う	3	7	33	13	4
事後アンケート結果					
(1) ホストファミリーとのコミュニケーションはうまくいった	9	31	15	6	0
(2) ホストファミリーとの生活はうまくいった	19	28	9	4	0
(3) ホームシックにはならなかった	22	18	10	5	6
(4) ホームステイ先の習慣になじめた	20	26	11	4	0
(5) 日常会話は円滑にできた	6	11	30	11	3
(6) 現地授業の進行についていけた	16	24	14	7	0
(7) 現地で充実したアクティビティーがあった	26	19	12	2	2
(8) 現地の生活になじめた	20	27	12	2	0
(9) 現地の治安はよかった	35	16	8	2	0
(10) 現地の食べ物が口に合った	14	20	15	11	1
(11) 現地の交通で不自由はしなかった	18	11	19	12	1

## 【自由記述】

## 事前アンケート

- (1) 現地事情を知るための文化研修に対する意見、要望
- インターネット上での現地の人々との交流を持ちたかった。(3)

- 歴史・遺産などを巡るアクティビティーもほしい。
- あまり前情報が過ぎると研修中とのギャップがあるかもと心配になる。
- 自分達で現地のことを調べる時間がほしい。
- 治安が良いということで安心できる。

- ホストファミリーの紹介文を詳しく書いてほしい。
  - 文化の違いによる「ものの考え方」についてもっと知りたかった。
  - 食文化についてもっと知りたい。
  - ラグビーに関する情報がほしい。
  - 現地の大学の制度などについて聞きたい。
  - ニュージーランドの文化に関するビデオをもっと見たい。
  - 研修地の詳しい地図がほしい。
  - 広く浅いというより狭く深い知識を身につけたい。
  - 現地の写真と詳しい内容がわかる説明がほしい。
  - マオリ族の歴史などについて学びたい。
  - 現地の交通状況を知りたい。
- (2) 海外研修に望むこと
- 英語力の向上。(14)
  - コミュニケーション力をアップ。(5)
  - 楽しい研修にしたい。(5)
  - 異文化交流。(4)
  - 日本では経験できないこと。(3)
  - 新しい人間関係の構築。(3)
  - 色々な文化を知る。(2)
  - 人として成長する。(2)
  - 交流の場が多くあるといい。(2)
  - 自然に親しむ。(1)
  - ニュージーランドでの経験を自分のものにして将来に役立たせたい。(1)
  - 海外に目を向けるきっかけとなればいい。(1)
  - もう少し費用がかからなければいい。(1)
- (3) 研修前の授業で知っておきたいこと
- ニュージーランドの生活様式。(7)
  - 日常会話。(6)
  - 現地の情報。(4)
  - 現地の治安と習慣。(4)
  - 食文化。(3)
  - 交通機関について。(3)
  - ホストファミリーについて。(3)
  - やってはいけないこと。(2)
- 現地大学での授業について。(1)
  - ニュージーランドの気候。(1)
  - 現地の大学やその周りの地図・写真を通しての詳しい説明。(1)
  - ニュージーランドでのインターネット利用状況について。(1)
  - コミュニケーションの取り方。(1)
  - 食品の安全性について。(1)
- (4) その他不安なことや期待することがあれば書いて下さい
- (不安)
  - 英語力。(9)
  - ホストファミリーとの会話。(6)
  - 会話, コミュニケーション。(6)
  - 食事が口に合うか。(6)
  - バスの乗り方。(5)
  - ホストファミリーとうまくやっていけるか。(4)
  - 人とうまく関わりあえるか。(3)
  - 失礼になってしまう態度, 言葉。(2)
  - 生活に馴染めるか。(2)
  - 迷子になったらどうすればよいか。(2)
  - 全部。(1)
  - シャイな自分から抜け出せるか。(1)
  - 習慣の違い。(1)
  - 病気(風邪など)にならないか。(1)
  - ホームステイ全部。(1)
  - 通学経路に関して。(1)
  - (期待)
  - 食文化。(5)
  - 英語力の向上。(4)
  - ニュージーランドへの理解が深まる。(4)
  - 現地の観光やアクティビティー。(3)
  - ニュージーランドの自然。(2)
  - 自分がどれだけ成長できるか。(2)
  - ホストファミリーとの交流。(2)
  - 新たな発見。(2)
  - 今までとは違った価値観に触れることによって, 自分の考えを変えるきっかけになるかもしれない。(2)
  - 英会話能力がどこまで上達するか。(2)

- ・現地大学の授業。(2)
- ・ニュージーランドに行くこと自体が期待。(2)
- ・多くの人々との交流。(2)
- ・今までやってなかった体験ができる。(1)
- ・海外生活に慣れる。(1)
- ・一人でやっていける能力がつくこと。(1)
- ・たくさんの思い出が作れる。(1)
- ・おいしい料理。(1)
- ・青空。(1)
- ・羊。(1)
- ・現地にしかない植物や動物を見ること。(1)

### 事後アンケート

#### (1) 事前の現地事情を知るための文化研修に対する意見・要望

- ・気候や気温(思ったより寒かった), 持参するものについて具体的に詳しく知りたかった。(5)
- ・アクティビティーについてもビデオ教材などを使ってわかりやすくしてほしい。(2)
- ・写真や映像, 資料を多くしてほしい(マオリ文化などについて)。(2)
- ・事前にホストファミリーの顔写真とか送ってくれればお土産などを用意しやすい。(1)
- ・ラグビーのルールを知っておいた方がためになる。(1)
- ・現地の人と話か Eメールのやり取りがあればよかった。(1)
- ・お店の名前を知りたかった。(1)
- ・ホストファミリーの情報をもっと早くにほしい。(1)
- ・日常英会話力をもっとつけたい。(1)
- ・『海外研修記録』はとても役に立ったし, 心配ごともなくなくなった。(1)
- ・研修前に現地の大学と交流したかった。(1)
- ・ニュージーランドの歴史, マオリの歴史についてもっと勉強しておくべきだと思った

(現地の英語での説明を理解するのに役立つ)。(1)

- ・家庭での食事についてもっと具体的に知りたかった。(1)
- ・ニュージーランドには様々な民族がいることをもっと詳しく知りたかった。(1)

#### (2) 海外研修参加後の成果

(英語力)

- ・全般的に英語力が上がった。(17)
- ・聴く力が良くなった。(13)
- ・相手が何を言おうとしているか以前より理解できるようになった。(5)
- ・日常会話力がついた。(5)
- ・現地の人との会話によりネイティブの発音に触れることが出来た。(5)
- ・積極的に話しかけることが出来るようになった。(3)
- ・自分の思いを伝える英会話力が身に付いた。(2)
- ・語彙力が増加した。(2)
- ・状況によって使う文法がわかった。(1)
- ・コミュニケーション能力が増した。(1)
- ・「習うより慣れろ」という印象を持った。(1)
- ・英語は片言でも通じることがわかった。(1)
- ・英語が嫌いではなくなった。(1)  
(文化体験)
- ・食文化の違いを実感した。(6)
- ・ためになった。(6)
- ・博物館でマオリ文化を体験。(5)
- ・バスの乗り方, 生活の違いを体験できた。(4)
- ・シャワーのみの生活がどういふものか実感した。(4)
- ・ニュージーランドの異文化に触れて世界は広いなと実感した。(3)
- ・日本との違いを体験できた。(3)
- ・バスの利用の仕方, 信号機, 食べ物など日本との違いを体験できた。(2)
- ・ニュージーランドの自然を満喫した。(2)



- ・楽しかった。(2)
  - ・ラグビーの醍醐味を知った。(2)
  - ・日本では出来ないことがたくさんできた(特にホームステイ)。(1)
  - ・デボンポートの山を訪れ、ニュージーランドの歴史を肌で感じた。(1)
  - ・ホームステイ先がキリスト教徒だったこともあり、様々な観点から日本との違いも比較できた。(1)
  - ・ニュージーランドの人々を通して、“thank you”という言葉の意味と大切さを学んだ。(1)
  - ・「ハカ」を体験。(1)
  - ・ビーチの美しさ。(1)
  - ・初めて体験するアクティビティ(スポーツ、小旅行など)は新鮮な気持ちを持続させてくれた。(1)
  - ・異国の文化を知ることが出来て、新しい考え方を身につけることが出来た。(1)
  - ・ゆっくりと過ごすこと、家族の時間を持つことの大切さを実感した。(1)
- (3) 研修前の授業で知っておけば良かったこと、調べておけば良かったこと
- ・必要最低限の英語力(日常会話、単語等)。(21)
  - ・ニュージーランドの気候と健康管理。(5)
  - ・マオリ文化や生活習慣。(4)
  - ・食文化。(3)
  - ・ショッピング、お店について。(3)
  - ・交通機関(特にバス)の利用の仕方。(2)
  - ・ニュージーランドの歴史。(2)
  - ・ニュージーランドの物価。(2)
  - ・文化の違い。(2)
  - ・持っていく荷物の量。(2)
  - ・為替レート。(1)
  - ・研修地についての知識。(1)
  - ・何故こんなにアジア系の人が多いのか(特にオークランド)。(1)
  - ・日本とニュージーランドの交友関係。(1)
  - ・お土産について。(1)
  - ・観光地について。(1)
  - ・ラグビーのルール。(1)
  - ・無し。知らないで行く方が驚き大きい気がする。(1)
  - ・電圧器の有無。(1)
- (4) その他面白かったこと、ためになったこと、残念だったことがあれば書いて下さい。
- (面白かったこと)
  - ・アクティビティ。(11)
  - ・授業。(9)
  - ・小旅行。(6)
  - ・ショッピング(おしゃれなお店)。(5)
  - ・色々な人々との出会い、交流。(5)
  - ・全てが楽しい。(4)
  - ・羊、山羊、牛が沢山見られた。(3)
  - ・バスの運転の仕方。(2)
  - ・色々な場所、食事、風景が知れたこと。(1)
  - ・海に行ったり、フィールドワークが出来た。(1)
  - ・ニュージーの食文化に触れたこと。(1)
  - ・日本語が通じない状況。(1)
  - ・ロッククライミング。(1)
  - ・会話。(1)
  - ・街と自然の融合。(1)
  - ・他国からの留学生との交流。(1)
  - ・ラグビー。(1)
  - ・日本とニュージーランドの街並みの違い。(1)
  - ・行ったことや見たことのない街ばかりで飽きなかった。(1)
  - ・子供のしつけ(日本と比較し、厳しく、妥協しない姿勢で子供の反省を促す)。(1)
  - ・ホストファミリーとのドライブ。(1)
  - ・よく分らない日本語の表現があるTシャツを見つけたこと。(1)
  - ・サッカーの試合。(1)
  - ・パーティー。(1)
  - ・何もかもが新鮮で面白かった。(1)(ためになったこと)
  - ・異国の文化に触れることが出来た。(9)
  - ・初めての海外だったので知らないことが多



- く、全部ためになった。(4)
- ・水の大切さを知った。(3)
- ・授業。(3)
- ・ホームステイ。(3)
- ・英語聴き取り力の向上。(2)
- ・自分で行動しなければ何も始まらないので積極的になれたこと。(2)
- ・日本に帰ったら英語をもっと勉強しようと思った。日本人以外の沢山のひとと話せるなんてとても素敵なことだと感じた。(2)
- ・ホストファミリーとの3週間で、日本とニュージーランドの生活習慣、食文化の違いを知ることが出来た。(2)
- ・話したことがないひととでも仲良くなれる。(2)
- ・海外での生活の仕方。(1)
- ・ニュージーランドのテレビは女性を対象にして番組を作ったり、CMを流したりしていた。日本では夜はファミリー向けのバラエティ番組が多いが、ニュージーランドではドラマや料理番組が多い。視聴者への思いは日本よりしっかりしていると思った。(1)
- ・興味を持つこと、チームワークの大切さを知った。(1)
- ・ニュージーランドの生活習慣。(1)
- ・自分の知らなかった世界が知れる。(1)
- ・片言の英語でも通じること→英語の楽しさがわかった。(1)
- ・英語日記。(1)
- ・海外に行ってみたいと思えるようになった。(1)
- ・コミュニケーション。(1)
- ・新しい考え方。(1)
- ・英語は、単語とジェスチャーとイントネーションでコミュニケーションが図れることがわかった。(1)
- ・マナーに関して。(1)
- ・日常会話。(1)
- ・現地の情報を知ったこと。(1)
- ・家族愛の深さを知った。(1)

- (残念だったこと)
- ・ホストファミリーや他国からの留学生とのコミュニケーションが上手く図れなかった。(14)
- ・悪天候のため一部のアクティビティーが中止になった。(4)
- ・天候が悪かった。(4)
- ・長いようで短い3週間。出来ればもう1週間ほしかった。(3)
- ・もう少し観光したかった。(3)
- ・サッカーの試合で惨敗したこと。(2)
- ・食事に関して——ホームステイ先の食習慣(インド系だとカレーが大半、野菜より炭水化物が多いなど)によって、期待していたニュージーの代表的な食べ物が味わえなかった。(2)
- ・ゆっくりお風呂に入れない。(2)
- ・雨のため、スカイタワーからの景色の妙味が半減した。(1)
- ・星空があまり見られなかった。(1)
- ・お米が美味しくなかった。(1)
- ・ホストファミリーの家が学校から遠かった。(1)
- ・料理の味が濃い。(1)
- ・一人でいることが多かった。(1)
- ・「ハカ」が見られなかった。(1)
- ・もっと動物と触れ合いたかった。(1)
- ・変圧器が必要でなかった。(1)

この結果から、前回纏めた報告——研修参加学生の大半が必修科目履修生の場合(江戸川大学語学教育研究所紀要 *Language Education Vol. 10* 参照)——と比較して、今回参加した学生達には「マークシート調査」「自由記述」双方において研修に対するより積極的な姿勢が見られ、満足度も高いことがうかがえます。それは、例年実施されている「ニュージーランド研修英語特待生制度」(2~3月にかけての6週間の現地研修)にも3倍以上の倍率となる学生が応募したことからも、研修参加者の満足度とより高い志向性が読み取れます。更に次年度に向けて、現行のニュージーラ

ンド研修に加えて、2年次生科目として「ニュージーランド研修Ⅱ」（夏季休暇中の6週間の現地研修）を設置する構想もあり、学生自らの意志で海外研修に参加できる機会がより充実されていくものと思われます。

そうした学生達の意識をより国際的志向へと導くために、今後の課題として

- (1) 経済的支援体制の強化
- (2) 入学前からの情報提供を全学挙げて徹底する
- (3) キャンパス内の知性・感性両側面からの国

際化

- (4) イマージョン教育の導入

(5) 国際交流を主眼に置いた英語教育の充実等、キャンパス全体に国際的香りを漂わせることが挙げられます。社会学部とメディアコミュニケーション学部の2学部から成る本学においては、上記の項目は妥当性に欠ける感もありますが、「国際化」を教育目標の一つに掲げていることを考えれば、少しなりとも国際的な雰囲気づくり及び教育内容の充実を図ることが必要であろうと考えます。